

授業の具体的展開例

◎図や線分図を使ってかさを求めよう

T：あふれるかあふれないか、マスや線分図を使って、理由をかきましょう。

C：まずを使いました。1ℓは、0.1が10個分で1ℓになるから、0.6に0.3を入れても、0.1ℓにはならないので、まだ、0.1ℓ余っているのであふれません。

C：0まずを横にして、0.6ℓのところから、0.3ℓだけ足したら、0.9ℓになるので1ℓにはなりません。

T：昨日の学習のことが使えましたね。マスを横にただけで、線分図と同じでしたね。

C：まず、0.6ℓと0.3ℓ足します。すると、0.1ℓが9つ進んだところなので0.9ℓになります。

T：0.6は、0.1が6こ、0.3は0.1が3こ合わせて0.1が9こ、0.9ℓだからあふれない。

T：次の問題。ジュースがペットボトルに0.6ℓ入っています。0.2ℓ飲みました。残りは何ℓでしょう。

T：これは、何算になるでしょう。

C：0.6ℓ入っていて、0.2ℓ飲んだから引き算です。

T：みんな式と答えは出ていますね。

$$0.6 - 0.2 = 0.4$$

0.6は0.1が6こ、0.2は0.1が2こひいて、0.1が4こです。

(練習問題へと)

「活用」の力を育てる評価の工夫

「ジュースをうつしかえると入れ物からあふれてしまうか。」と児童の意欲を喚起する課題について、図を活用しながら自分の考えをしっかりと書かせる場を設定する。そのことを通して論理立てて説明する力を付けていきたい。

本時では、「ジュースがペットボトルに0.6ℓ入っています。0.2ℓのみました。残りは何ℓでしょう。」という練習問題を適応題として提示した。この場合は、ひき算の問題になるが、0.1を何個分かで考えると、整数の計算と同じように考えることができる。はじめの問題で、共通理解した0.1が何個分かで考える方法を使うと、ひき算でもできるということが理解できる。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、ジュースがあふれるか、あふれないかを判断し、その理由を書くことを表現する場として設定した。そのための手がかりとして、マス図や線分図を使って、0.6や0.3の大きさを視覚的にとらえさせた。そのことが見通しを持つことになる。ほとんどの児童が、あふれないだろうという予想を持った。それから、式・答えを書いてから考え方を書く児童や、図を書いてから説明する児童、言葉だけで説明する児童がいた。

①0.1の大きさを理解し、そのいくつか分として、考えることができているか。

②小数の大きさや加減の計算などを、整数と同じように考えることができているか。

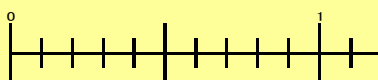
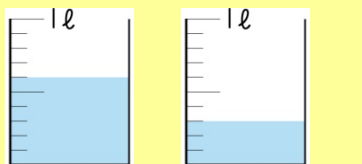
上記の2点について、小数の意味や仕組みから説明できるようにすることで、理解を深めるようにしていきたい。

教材・教具

○ペットボトル・ジュース (実物)

○マス図

○線分図



本時の流れへ

評価問題

単元の流れへ

HOME

